

<p>教材名</p> <p>スイミーと一緒に・・・</p>	 	
<p>〈教材のねらい・使い方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「スイミー」の登場人物を使い「大きい」と「小さい」、「多い(いっぱい)」と「少ない」、「赤い」と「黒い」を感じることができる。 		
<p>材料及び作成の工夫等</p>		
<p>〈材料〉生徒が色付けした画用紙、ラミネート用フィルム、修正液または丸シール、段ボール、マグネットシート</p> <p>〈作成の手順〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 画用紙を魚の形に切り、目を描く。 ② ラミネートする。 ③ 段ボールに張り付け、裏にマグネットシートを付ける。 <p>(段ボールが薄いと、使っているうちに曲がってくるため、生徒が扱いやすいほどよい厚さの物にする。厚すぎると重くなり、マグネットシートを使う量も多くなる。)</p>		
<p>題材名と児童生徒の使用している様子等</p>		
<p>〈 自立活動「お話大好き」～スイミー～〉</p>		
<p>① 「大きいね」「小さいね」</p>		<p>② 「黒いね」「赤いね」</p>
<p>始めに取り組んだ。ひもを引くと、一匹ずつ魚が落ちてくる仕掛けを使った。ホワイトボードに張る際に、「まぐろ、大きいね」などと、言葉を添えた。教師をまねて「おっきいねー」と話すことが増えた。</p>	<p>「大きい」「小さい」と同じ、魚が落ちてくる仕掛けとホワイトボードを使った。</p>	
<p>③-1 「兄弟達を探そう」</p>		<p>③-2 「いっぱい、いるね」</p>
		
<p>スイミーの兄弟達を探す活動では、「どこにいますか？」と問い掛けると探す様子が見られ、「いるー！」と指差したり、腕を伸ばして取ったりした。集めた魚を張り付けるときには、「1、2、3！」と、数える様子が見られた。振り返りで教師が「魚、いっぱいいましたね。」と言葉掛けをすると、「うんうん。」「いっぱいだなー！」などと応えた。</p>		